

あかえっこ図書館だより

# にじのかけはし



令和5年1月17日 No.13



## うさぎの本 本 本 本

新しい年2023年が始まりました。今年の干支も昨年の「壬寅」「五黄の寅」に続いて「癸卯」という珍しい組み合わせの年のようです。飛躍できるそして、心穏やかに過ごすことのできる1年になればと願っています。

さて、今年も我が家にあるうさぎに関する本を集めてみました。本の中でうさぎがどのように描かれているかで、今年がどのような年になるだろうかと再び勝手に思い描いてみました。

### まずは、恒例の十二支に関する本から・・・

『十二支のはじまり』(岩崎京子文 株式会社教育画劇)の絵本の中には「うさぎもあしははやい。いざとなったらだれにもまけるもんか。ゆうゆうとでかけたけど、これがゆだんというもの。一ばんにはなれなかったんだと。」と書かれています。昨年のとらと同様、最後まで精一杯取り組むという姿勢を大切にしていきたいと感じました。

『十二支のお節料理』(川端誠作 BL 出版株式会社)の絵本の中には、うさぎがお節料理の何の担当をしているのかが書かれています。「うさぎはうつわやはしや

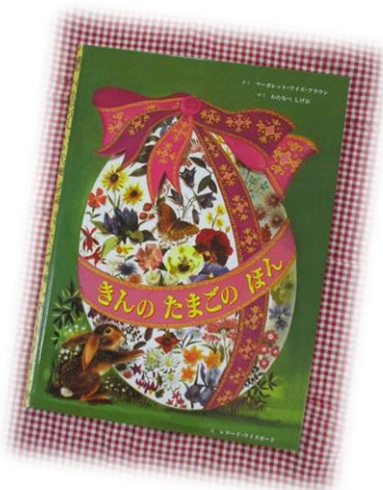
重箱をえらんでそろえるかかりです。まい年おなじではたのしくないですからね。」毎日していること、何気なくしていることも工夫をしたり、どのような気持ちで取り組んでいくのかという気持ちのありようであったりでちがってくるのではと思いました。幸せは自分の心のありようで感じたり、感じなかったりするのではと気づかされました。

十二支の本の最後は『十二支のかぞえうた』(さいとうしのぶ作 佼成出版社)です。この絵本は、12のどうぶつたちが、12の月にちなんだ食べ物を、12の時間に合わせて、食べる様子を『かごめかごめ』のメロディーにあわせて歌うことができるようになっています。うさぎは「4月4日4じにうさぎがさくらもちたべた いくつたべた？」とあり、満開の桜の木の下で、作務衣を着たうさぎが、お茶を飲みながら桜餅を食べる様子が描かれています。日本の四季の中でも、桜の咲く季節はひときわ心が躍ります。ゆったりとした時間をもつことは生活を豊かにしていくことにつながっていくのだと思います。その季節ならではの風景や行事、旬の食べ物、伝統食など、日本人ならではの物を大切にすることを心がけていきたいと感じました。



## 次は、うさぎの登場するお話から・・・

うさぎの登場するお話で真っ先に思い浮かぶのは・・・『きんのたまごのほん』（さく マーガレット・ワイズ・ブラウン 童話館）の絵本です。とても美しい絵の絵本です。小さいひとりぼっちのうさぎが、ある日、たまごを見つけます。うさぎは、「もしかしたらゾウかな、それともネズミかな。」とたまごの中を想像するのですが、どんなことをしても動かないたまごに、とうとう眠ってしまいます。その間に、たまごから出てきたのは・・・？うさぎのかわいらしさをたっぷりと楽しめる絵本です。そして、想像することはやっぱり楽しいことを再認識できます。



『ふわふわしっぽと小さな金のくつ』（デュ・ボウズ・ヘイワード 作 パルコ出版社）は、イースターに欠かせないイースター・バニーが登場する絵本です。イースター・バニーは、幸運をよぶ卵を配るうさぎです。「イースター・バニーになれるのは、ぜんぶでたったの5匹。心がやさしくて、足が速くて、おまけにとっても賢いうさぎが、世界中のうさぎのなかから、5匹だけ選ばれます。なにしろ、イースターの前の晩から夜が明けるまでに、ふつうのうさぎが1年かかってもできないほどの仕事をやりとげるのですから、とくべつのうさぎでなければいけません。」と書いてあります。ふわふわしっぽという名の女の子は、大人になったら、イースター・バニーになることを夢見ていました。時が過ぎ、ふわふわしっぽには、21匹の子どもたちが生まれました。さあ、ふわふわしっぽは、念願のイースター・バニーになることができるのでしょうか？ふわふわしっぽの賢さと心優しさに、最後になるほどと思わされます！困難と思われることにも、知恵と工夫で向き合っていくことができるとよいなと思った絵本でした。

この他にも、うさぎの登場する本は、まだまだあります。『ピロドうさぎ』に、『ホッペル、ポッペル、それともストッペル？』『わざとじゃないもん』などなど・・・

いつも手に取る本の中にうさぎが登場する本を加えてみるのはいかがでしょうか？みなさまにとって、この1年がすばらしい年であることを願っています。今年もよろしくお祈りします。



文責：司書教諭 岡 鶴子